

# 協同の仕事おこし

**大村関雄（労協センター事業  
団九州北事業本部）**



第六分科会は企画を嘉飯山福祉労働企業組合の平塚さんと労協センター事業団の大村が担当し、コーディネーターを日本労協連の鍛谷さん、コメンテータを長崎大学経済学部の吉田省三先生にお願いしました。

最初に鍛谷さんより全体集会の流れを受けて「グローバル化に対抗する地域再生の新しいちからは市民の自発的な協同のネットワーク構築が大切である」と集会の意義を示されました。

「協同のしごとおこし」をテーマに困難な時代にあって高齢者や障害者失業した人々などが自らの尊厳と生きがいをかけて、さまざまな困難と苦闘しながら「仕事」の価値を見直し、社会的ハンディの克服、人生の完成期の生きがい、地域づくりや環境問題地域福祉活動などの仕事を自分達で切り開く実践を報告し意見交換をしました。

前半は高齢者の仕事おこしを中心に「北九州遠賀中間中高年事業団」の仲野邦彦さん、「嘉飯山福祉労働企業組合」の平塚秀行さん、「社会福祉法人すみれ育成会」の入江喜代治さんからの報告と意見交換を、後半は地域福祉事業や障害者問題、環境をテ-

マに労協センター事業団沖縄北部地域福祉事業所「ゆらりの里」島袋百合子さん、佐賀市NPO法人「ふくしさとづくりの会」の川副知子さん、北九州市NPO法人「夢つむぎ」の高田猛さん、福岡市から「西日本リサイクル運動市民の会」の小池寿文さんの報告を受け、労協連鍛谷宗孝さんのコーディネートで長崎大学経済学部吉田省三先生からコメントを頂きながら、空席ナシの会場の皆さんとともに熱気あふれる意見交換と勉強をしました。

## 「高齢者の仕事おこしと生活支援ハウス 建設計画」

### 北九州遠賀中間中高年事業団

**仲野邦彦さん**

遠賀町の人口19,700人のうち高齢者が3,400人を超えておりその内要介護の高齢者が500人以上、さらには一人暮らしのお年よりが400人以上であること。

アンケート調査の結果、多くのお年よりはみんな共通して寂しい思いをしながら暮らしており今は元気でも行く末の不安は共

### コーディネータ

鍛谷宗孝（日本労働者協同組合連合会）  
大村関雄（労協センター事業団）

### 報告者

小池寿文（西日本リサイクル運動市民の会）  
川副知子（NPO法人ふくし里づくりの会）  
島袋百合子（労協センター事業団沖縄「ゆらりの里」）  
平塚秀行（嘉飯山福祉労働企業組合）  
高田 猛（NPO法人夢つむぎ）  
入江喜代治（すみれ育成会）  
仲野邦彦（遠賀の里設立準備会）

### コメンテーター

吉田省三（長崎大学）

通のものがある事が報告されました。皆さんの要望が多かったことは、いつでも何のことも気軽に相談にゆける場所がほしい。毎日手弁当で気軽に皆と楽しめる場所がほしい。畑作りや野外散歩を楽しみたい。一日2・3時間、一日おきくらい働きたい。ワープロ・パソコンを習いたい、などと要望は多岐にわたっている。

中高年事業団ではこれらの要望にこたえるため、減反農地を活用して青汁の原料となるケール栽培や活動の拠点づくりのため「高齢者生活支援ハウス」の建設計画を進めていること。支援ハウスが出来れば地域の高齢者の日常的な溜まり場が確保されさらにいろいろな仕事おこしの拠点となり、活力ある地域づくりを協同の力で創っていきたいと報告されました。

### 「嘉飯山地区における仕事おこし」

#### 嘉飯山福祉労働企業組合 平塚秀行さん

小学校の教員を定年退職して友人と二人で地域のために何か役立つことをしようと

はじめたのが1996年。翌年には「定年退職後の生活は、余生ではなく自立して健康な生活をする事が求められている。雇われる労働に頼ることなく自分達の手で事業を起こし高齢者や障害者に適した働く場を得て自立しよう。」と組合を設立した。

仲間の協力で農地の提供を受けビニールハウスでの園芸や1998年には地域自治体からの公園維持管理業務の委託契約獲得。そこで働くメンバーとして障害者施設と作業委託契約を結び障害者の方の就労の機会を作ることが出来たこと。

このころ新聞で紹介されたこともあって自治体からの委託業務も拡大。清掃部、葬祭部、運送部などを開設。

2002年10月現在組合員数144名、就労者57名、出資金300万円となっていることが報告された。

最近の出来事として元建設業を営んでいた社長さんと部下の方二人が事業団を尋ねてきて、「ぜひ仕事をさせてほしい何でもやりますので」と真剣な申し入れ。大変な時代なのだと切実に実感したこと。

またマスコミに報道されたため遠くのお

年寄りから雨漏りの修理を頼まれて、調査に二人かかり、修理の方は組合員の大工さんが出向いたものの実際は防水コーキングをするだけの作業で終了。3人役もかかったのに帰ってきた大工さんは「コーキングするのにわずか数分。とてもお金は取れませんでした」。との報告がありこれではとても採算にあわないと皆で大笑いしたことが報告されました。

会場から「緊急地域雇用対策特別交付金事業を受注されているが半年で打ち切られては雇用対策には不十分。何とか制度の改革はできないのか」と切実な声が聞かれた。

組合として多くの問題をかかえているが組合員や地域の人々と力を合わせて頑張りたいと力づよく表明されました。

### 「筑豊における、中高年事業団の協同労働について」

**社会福祉法人すみれ育成会 入江喜代治さん**

石炭の生産で栄えた筑豊地区も1968年から71年にかけて炭鉱の閉山が行われ今はそのころを物語る「ボタ山」がこのことを象徴している。炭鉱の閉山により失業者が多発し生活の困窮、石炭公害の多発と大変な後遺症を残してしまった現実を生々しく報告されました。

1968年から97年の30年間に何と2兆円もの国の補助金が投入され、道路整備や炭鉱住宅の改良工事、同和対策事業、鉱害復旧事業が行われたが、地域産業は育たず就労の現状は全地域が産業の空洞化を示している。

しかしこの地域には広大な農地がありゆ



たかな農村としての活路があるはずだが、実態は国の減反政策や食料品の輸入政策により筑豊の農業後継者は農業経営に希望をもてず他県に職を求める人が増加している実態が報告されました。

このような中で炭鉱に変わる新しい協同労働の場として障害者施設と農家が協力して農業後継者が育つような「地域農業」を創りだす必要があると考え、社会福祉法人すみれ育成会では平成13年に知的障害者が栽培する「菌床椎茸」栽培福祉工場の施設建設を福岡県に申請した。しかし椎茸の販売計画について難色を示されたため計画を更正援護通所施設に替えて15年度の施設建設で申請している。申請にあたり地域の人々の同意が必要であるが多くの方々が賛同と支援を表明していただき大変感謝していること。

炭鉱に変わる雇用の場 地域活性化の柱である農業と高齢者障害者の参加できる協同労働で仕事をおこす。さらには自治体の協力を得て福祉型社会の形成をめざしたい。要は大不況の日本社会のなかでは市民の自発的な意思による協同労働でなければなし得ない事を自覚して広く地域に呼びかけたいと報告されました。

## 「労協高齢協が一体となつての仕事おこし」 労協センター事業団沖縄北部地域福祉 事業所ゆらりの里 島袋百合子さん

沖縄では労協と高齢協が一体となつて仕事おこし・事業展開を行っている、と沖縄の特色を最初に報告されました。97年に那覇市において始まった高齢者等宅配給食サービスは地道な活動の成果が評価されて、その後、名護市での高齢者等宅配給食委託事業へと発展した。

00年6月から委託事業として開始。当初は市役所、病院、支援センター等の関係機関の方々に試食をお願いしたり説明会を開くなど地域の人々への理解を深めていただく活動をしたこと。配達員は介護福祉士や訪問介護員の有資格者があたり、きめ細かくで敏速な対応で利用者はもとより家族や自治体からも厚い信頼を得ることが出来たと報告されました。

集会に参加していた沖縄の仲程美智子さんも発言に加わり、弁当配達とともに安否確認をおこなっているが、あるときお弁当を届けたのに本人がお留守で近所の人にたずねたが「息子さんの所ではないですか」と言われる。新聞がたまっている事も気がかりで関係先に連絡。搜索願を出す結果になったこと。単にお弁当を届けるだけでなくお年よりの安否確認をする事が非常に大切なことでこの点が高く評価されていると報告されました。

現在の配食数は委託分が月2,000食 自前分が1,500食になり経営的にも安定してきたこと。さらには給食事業と平行して訪問介護事業へと展開し現在訪問介護員8名

利用者32名月600時間と着実に成果を作り出している。

また2003年1月には厚生労働省の介護予防拠点整備事業費4,000万と名護市からの助成金800万でデイサービスセンターが出来た事になりその委託事業も約束されていると嬉しい報告がありました。

97年2月から労協高齢協が協力して自治体と協同の仕事おこし、地域福祉を担ってこれたのは那覇市において宅配給食事業を労協が立ち上げ高齢協が担って地域住民とともに真に地域の事を考え活動してきた事が名護市や恩納村に認められて、労協高齢協合わせて6箇所の地域福祉事業所が作られたと報告され、沖縄での地域福祉事業展開の力強さを感じる報告となりました。

## 「仕事を通して地域社会とかがわる」 佐賀市NPO法人ふくしさとづくりの会 川副知子さん

ふくしさとづくりの会は障害者・児・高齢者・社会的弱者(病人・子ども・女性等)や健常者を問わず誰もが個性と気づき、その違いを超えてともに暮らしていけるやさしい「さと」づくりをめざしていると報告。

設立は1997年6月 現在の会員数は97名福祉作業所「DE・TE・KO・I」の運営、カレーショップの運営、エコランド(三瀬村・里山)づくり、将来的には「でてこいらんど佐賀」の建設を目指している事が報告されました。

三瀬村の里山づくりの一環として、下草刈りの協力を要請して、これにこたえて草刈に参加した人が同じ分科会に出席しており、嘉飯山福祉労働企業組合の組合員の方と以前からかわりがあった事が判明。会

場から「世の中はせまいね」の声が聞こえた。

1995年にはNPO法人「助け合い佐賀」またNPO法人「市民生活支援センターふくしの家」(養護学校卒業後の支援事業) 97年にはバリアフリーの里を目指して「ふくしさとづくりの会」が発足。2000年にNPO法人化となり事業も拡大した。

2001年NPO法人「さが市民活動サポートセンター」設立専務理事としての職務もお持ちで2002年には佐賀市より市民活動プラザ(市民活動センター)の運営委託を受けて活動している。センター事業団佐賀地域福祉事業所「安暖手」も立ち上げまでの打合せや勉強会に会場を利用させていただいた実績があることも。

福祉作業所では使えなくなった傘でバッグを作って販売しており地域で好評を得ていることが報告され、回収ボックスの設置場所を募集していることが紹介されました。

佐賀市の福祉活動について市役所内に社会福祉課が創設されてから大きく変わってきたと報告。今回の出会いを大切に今後協力して行きましようとの意を表明されました。

### 「障害者の就労支援」

#### NPO法人 夢つむぎ 高田猛さん

14年9月8日付朝日新聞が、NPO運営の障害者作業所から就職決定者3人が卒業と報じた。北九州市小倉北区に拠点を持つNPO法人「夢つむぎ」の高田さんは障害者も一人前の社会人として就労できる事を目指して就労支援に関する事業を行っている。

今日障害者の就労はきわめて厳しく現実

の社会における経済消費動向を見る一つの試金石となりうる問題として位置づけられていると報告。地域の企業や市民とともに障害者の能力を開発し、就労へと導き、人にやさしい自然にやさしい地域社会形成こそ今強く求められていると発言された。

夢つむぎ協同作業所の運営形態は市民・団体・地場市場及び個人のボランティアに幅ひろく呼びかけて障害者就労支援事業の一翼をめざして活動していること。他の施設及び関連施設との情報交換・交流を図り、ワークシェアリングの実施により無理のない運営を計っていること。情熱・創造・共に働く喜び、を目指し、分かち合い助け合いの精神での運営を目指していますと報告されました。

障害者が仕事の内容によっては対等以上の能力を発揮できる場合もあり、受託した仕事を決められた期限内に仕上げ納入し対等な代価が得られる喜びを共有したい。又、発注元に仕事の出来栄を評価していただき、本人の就労に役立つことが出来たらこんな嬉しいことはないとも。

今後は地域でお互いに情報交換を行い協同の力でより良い社会づくり仕事作りに頑張りましようとの発表をむすばれました。

### 「『循環型社会 環境保全型社会』の形成をめざして」

#### 西日本リサイクル運動市民の会

#### 小池寿文さん

西日本リサイクル運動市民の会は92年8月に開催された「牛乳パックの再利用を考える連絡会全国大会」(北九州市)の実行委員会である。生協グリーンコープ連合や「遠

賀川の水を守る会」「廃油を生かす会」「(株) ウィンドファーム」など60団体・個人の出資に基づき「循環型社会」「環境保全型社会」の形成を目的に93年に発足した。

フリーマーケットの開催、グリーンコンシューマー運動の展開、エコロジー商品の普及促進、環境ライブラリーの運営など。特にグリーンコンシューマー運動を柱に「市民活動」の事業化をめざしていると報告。

97年地球温暖化防止京都会議終了後は地球温暖化防止 省エネルギーの推進を目的に、九州電力からの寄付を受けて太陽光発電システムの補助事業をスタート。

さらに循環型社会の形成には廃棄物、リサイクル、エネルギーの問題だけでなく農林業の活性化、交通問題も重要で、林業振興のため九州産の木材を活用したエコマンシヨンの建設プロジェクトも推進している。

交通対策として交通公共機関とれんけいして「カーシェアリング」の事業プロジェクトも立ち上げた。「脱クルマ社会」をめざす交通対策の一環として行政や企業と連携して電気自動車を活用した日本で初めての「カーシェアリング」をスタートさせたと報告。電気自動車は一回の充電でおよそ80KMの走行が可能だが片道40KM以上の所へ足を伸ばすと途中でダウンする事もありうる。当面は会員になって近場での活用をお勧めしますと説明された。

するには新しい法制度の構築こそがその支えになると確信する集会となりました。ご協力いただいた皆様ありがとうございます御座いました。

## おわりに

立場も仕事の内容も違う人々が自らの意思でそれぞれの地域社会をより住みやすい社会へ、市民・高齢者・障害者が安心して生活できる社会へ、かけがえのない地球環境を守る事業、など多様な活動を協同で実現